100円からのCD批評 Latin VOL.5

マークポイント	＜評価＞
●	安くても買って損した
●●	どうでも良い
●●●	まあ、いいんじゃな～い
●●●●	かなり満足できた
●●●●●	非常に満足、してやったり！

＜21＞ブラジル

・Daniela　Mercury [O CANTO　DA CIDADE] 400円 {COLIMBIA/1992年再発売　ブラジル盤} 高田馬場にて

J・ウェーブの「サウージ・サウダージ」でよく聴いたタイトル曲の印象から知っていた歌手。詳しい事はわからないが、サウンドからいってバイーヤ系の人。このサウンド～チンバラーダ、カロリーニョスの辺り～が受け入れられるかどうかは１曲目から２曲目までで大概決まる。レゲエもそうだけれど、ラテン盆踊りの世界で東洋人にはズンドコズンドコ同じようなリズムパターンがしつこく飽きもせず続くのがこの音楽世界。モラレス・モレイラやカロリーニョスの曲がならんでいて、同じような感覚で押し切っちゃうのが強みかな？。　ジャケ写真から見るにご本人は典型的ブラジル美人。Ｈっぽくて、「歌うのはセックスの次に好きよ～」てな雰囲気が伝わってくるコンセプト（オヤジが勝手に想像しているだけだが…）がこういったジャンルでの成功の鍵。曲自体にはそれほど魅力が感じられないのに、こっちが勝手に期待して安い値段だと特に手を出しちゃうアルバムという音楽ジャンルがある。これは私にとってまさにそのラテンバージョンでした。
で、結局それなりに納得しちゃうというか、リズム感があって、こんなのでもまあ良いかというレベルのラテンミュージックですう～（これって、キャバクラで余り楽しましてくれなかったのに、我が身のスケベ根性に納得して帰宅するサラリーマンの感性と似てる？）満足度／●●●　　（購入日：1997.5）

<22>ブラジル

・Various Artists [BAHIA DANCE] 50円 {POLYDOR/1993年発売 ブラジル盤} 秋葉原にて

これまた前項と同じでバイーヤのヒットポップスをコンピレーションしたお手軽CD。ランバダと同じ雰囲気で本国では売れたらしい。 しかし、日本でもランバダ、スキャットマン・ジョン、ロス・デル・リオという得体の知れんヒット曲が生まれるが、これらは半年もしないうちに中古盤格安CDとなって市場に出まわるので、その時点で買いたかったら買って時の無情さを聴くのが楽しい。15年くらい前にバイーヤを訪れた経験があるが、街に音楽が溢れてる感じというのもあながち嘘ではない。バールや海辺でチャカチャカギターやらリズム楽器を鳴らして騒いでいる風景を何回も見つけた風土。 この程度のお気楽ミュージックもノリノリでフィバーしちゃうバイーヤ人種。聴くべきものがあるCDじゃないけど、こうしたコンテクストで読み解くと許せるのでした。だって50円だもの！？ 満足度／●●
（購入日 2001.1.10）

<23>ブラジル

・Clara Nunes [COM VIDA] 500円 {EMI/1995 年発売ブラジル盤} 柏にて

今は亡きクララ・ヌネスのトリビュートというか、ブラジル版アンフォゲッタブルなアルバム。有名なアーティストが結集して生前の録音にオーバーダブ、見事にデュエットで彼女のヒット曲を新しい装いにして出すという２度美味しい企画もの。ナタリー・コールのアイデア盗用であっても、まあここまでやると天晴れ。参加ミュージションの顔ぶれがオッタマゲ～のラインアップ。ジョアン・ボスコ、マルチーニョ・ダ・ビラ、アルシオーネ、ミルトン・ナシメント、シコ・ブアルケ……錚々たる面々。
オリジナルの楽曲そのままのトラックを使っているので目新しさはあまりない。するとあとはデュエット相手の力量にかかってくる訳だが、素晴らしいのはジョアン・ボスコ。自作曲[NACAO]でバッチしボスコ節を聴かせており嬉しいトラック、あとはパオリーニョ・ダ・ビオラの渋さが相変わらず良い。オールスター総出演でクララ・ヌネスが絶頂期だった70年後半から80年代初頭のブラジル音楽界の輝きを追悼するのにピッタシ。 あの時代のサンバ、ブラジル音楽好きのオヤジには必帯の1枚であります。 満足度／●●● （購入日 1997.5）

<24>ブラジル

ジャケの面白さから手にとって見たらマリーザ・モンチのアルバムと気づいて購入。未開封500円は安い。ブラジル軍事政権下で活躍したアングラ漫画家のかなりイカした漫画デザインは、アルバムスリーブからレーベル全面にまであしらわれていてこれでかなり得点を稼いでいる。 収録曲半分はライブ版旧曲であって、このアイデアは彼女のデビューアルバムからの流れであって解るが、ちょいと不満足。この人の取巻きはどういう訳か～おそらくアート・リンゼイの脈絡からか、２作目「MAIS」では坂本龍一がいるかと思えば本作のカロリーニョス・ブラウンもいて話題に事欠かない。おそらくロックの感性

・Marisa Monte [グレート・ノイズ／A GREAT NOISE] 500円 {EMI/1997年発売　国内盤未開封}　　松戸にて

が強く、ロックのカバーバージョンも本アルバムには含まれていてレニクラからジャニス・ジョプリン、ジョージ・ハリソンのヒット曲を盛り込んでいて興味深い。頭はキレルし、センスも良い、おまけに美人なんだけどどこかとっつきにくい感覚が残ってしまうのは何故か？知が情に勝っているように思えるのは、こちらのアンテナが古いせいもあるのだろうか（そ～だよと言う人が多いだろうな）。　こうした結果、残念ながら当方には期待感ばかりで肩スカシ気味のアルバムとなり、やはり好きなのがデビュー作の感覚である。ライブがきっと良いのだろうと思わせるアーティストだ。 満足度／●●●（購入日　　1999.8.25）

＜25＞メキシコ

・Guadarupe　Pineda [COSTUMBRES] 500円　{RCA/1991年発売　アメリカ盤未開封}　　柏にて

　メキシコの歌手／グアダルーペ・ピネーダのラテンスタンダード集。ボレロ中心の構成で、例によって切々と歌い上げるスタイル。ラテンミュージックの世界では、スタンダードアルバムはひとつのジャンルを形成しており、必ず売れっ子歌手はこれを手がけないと一人前とは言えないようだ。この人は、メキシコ・ポップス界の中堅スターらしいが、この手の歌手はかなり居そうではある。　アルバム構成は、メキシコ歌謡ランチェラ風のものもあるが、ボレロでも知られていない（というかこちらの不勉強ゆえか？）曲でも渋めのものに聴き所を感じる。ジャケ写真からいかにもメキシコ女性らしい顔が伺えるが、ラテン音楽の楽しみかたのひとつにそれぞれの国柄ゆえの美人の基準を推し量るのもそれなりのお楽しみである。グアダルーペは、メキシコ土着型美人かな？ 満足度／●●●　　（購入日　1998.4）